

## 6つの視点

10月27日（水）学校訪問における先生方の学習指導案が完成しました。今年度に関しては、今までとは違い、4つのことを考慮に入れながら、日々授業を行い、今回の学習指導案を作成したことと思います。

一つは、「学習指導要領」です。今年度から全面実施になっているということは、すでに理解が及んでいなければなりません。各教科の「学習指導要領解説」がバイブルとなります。二つめは、「教科書」です。主たる教材となるわけですから、いわゆる教材研究が必要となります。三つめが、「指導要録」です。表現をかえれば評価のことです。こちらは、各教科の『『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』が手引き書となります。

そして、四つめが、「リーディングスキル」です。本校では、現職教育における研究テーマとして取り上げ、研究を進めてきています。リーディングスキルテスト（RST）も実施しました。今までに実施された研究授業や今回の学校訪問の指導案には、RSTの結果を分析し、その実態から単元の指導計画や本時の学習過程に、「6つの視点」から取り上げるべき視点を入れていただきました。その視点を意識した授業が展開されるということになります。

そこで、改めて「6つの視点」について確認したいと思います。

- ①【係り受け解析】文の基本構造（主語・述語・目的語など）を把握する力
- ②【照応解決】代名詞などが指す内容を認識する力・省略された主語や目的語を把握する力
- ③【同義文判定】2つの文の意味が同一であるかどうかを正しく判定する力
- ④【推論】小学6年生までに学校で習う基本的知識と日常生活から得られる常識を動員して文の意味を理解する力
- ⑤【イメージ同定】文章を図やグラフと比べて内容が一致しているかどうかを認識する能力
- ⑥【具体例同定】言葉の定義を読んでそれと合致する具体例を認識する能力

他の学校の指導案や資料を見ていると、どうも「推論」が先生方にとってむずかしく、課題となっていることが見えてきます。「推論」の基本は、「Aが正しければBが正しい」ということと、「Bが正しければCが正しい」という情報から「Aが正しければCが正しい」という結論を導くことです。いわゆる三段論法です。

RSTの「推論」の問題を見てみます。難易度「普」の問題です。

以下の文を読みなさい。

グリーンランドの大部分や南極は冰雪気候で、夏でも平均気温が0℃以下のため、1年じゅう雪や氷で覆われている。

上記の文に書かれたことが正しいとき、以下の文に書かれたことは正しいか。「正しい」、「まちがっている」これだけからは「判断できない」のうちから答えなさい。

グリーンランドの一部は冰雪気候ではない。

「推論」は、他の視点と比べて、授業の中で取り上げるポイントはここだと示すことがむずかしいのかもしれませんが。逆に言うと、授業のどこでも「推論」になってしまうとも言えます。改めて、6つの視点に対する理解を深める必要があります。学校訪問は、そのためのいい機会になると思います。